

には高等小學堂一、蒙養小學堂五を有す。主なる物産は棉、小麥等にして、宗教には耶蘇教徒約三百人あり、土民は一般鴉片を好み、飲料には井水及河水を用ゆ。

十六日午前七時五十五分咸陽を發す行くこと約十數町五家鋪(十家約)に到れば其の西側を東西に走る一臺地あり。前には渭河を控へ且つ長安方面に對して、雄大なる一陣地を成す。是より西北、西上村に出づれば、此處は地勢更に一段高し、次で傍村(二家約)上趙村(十家約)董肅村、店張驛(五家約)晏村鋪、院店等の諸驛を経て、午後三時四十五分行程約十里、醴泉フオンチヨワンに投宿す。

道路は狭く、二米突半乃至五米突を内外し、傍村の西北に及んで凹道と成り、側壁斷絶を成す處多く、且つ路傍一帶に楊柳を植う。地勢は臺地以東平坦開濶なるも處々に凹道を通じ、傍村に至りて下傾斜となる其れより又緩なる上傾斜と爲りて醴泉に通じ、全途概ね村落稀疎なり。

途上彼の臺地上に、饅頭形の大土堆あるを見、之を土人に問へば、漢唐兩朝時代の墳墓なりと。其外乾州より麥、胡麻を載せて西安サンヨワンに到る車輛、或は釜を載せて蘭州に向ふ車輛、或は蘭州より水煙を載せて西安、三原サンヨワンに到る車輛等陸續たるを見たり。